

(法第28条第1項)

平成30年度 特定非営利活動に係る事業報告書（第11期）

千葉県松戸市新松戸四丁目257番地の1ニューホームズマンション1階
特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 Jワールド

理事長 三浦 輝江

1 事業の成果

ユース事業

- ・ユースペースは放課後の中高生の居場所として開催。ゲーム、バンド、勉強、心の相談など自由に参加。中高生にとって大切な居場所となっている。
- ・2014年から行われている「あなたは高価で尊い存在」がテーマの自己肯定感を高める出張授業を、今年度も県立松戸向陽高等学校、県立馬橋高等学校、また新たに近隣の市立小金中学校の計3校で行った。アンケートによると、3校とも授業が始まる前は「自分のことが嫌い」という生徒がほとんどだったが、授業の終わりには「自分のことを大切だと思える」という生徒が増えた。
- ・ユースペースで育った高大生数名が、松戸市中高生支援事業ゲットユアドリームでファシリテーターとして活躍、学習支援事業でのボランティアスタッフとして活躍した。

ゲットユアドリーム事業・松戸市委託事業

- ・松戸市立根木内中学校（参加者82名）、松戸市立古ヶ崎中学校（参加者100名）、また今年度は31年度新規モデル事業として松戸市立河原塚中学校（参加者161名）、松戸市立小金中学校（238名）の計4校で行った。
- ・4回のゲットユアドリームで、計41名（延べ人数・重複あり）の講師の方々にお話しいただき、様々な価値観や職業観に触れ、将来について考える場を提供できた。根木内中学校の生徒からは講師の方々に昨年に引き続き手作りの感謝のお手紙をいただいた。
- ・31年度新規モデル事業として行った2校について、河原塚中学校は、前年に根木内中学校でのゲットユアドリームを体験された先生からのご紹介で、また小金中学校は、自主事業の「自己肯定感を高める出張授業」を校長先生にご紹介した際に、ゲットユアドリームにも興味を持っていただき、開催の運びとなった。
- ・今回も学校と連携したことにより、より多くの中学生たちに将来について考える機会を提供することができ、ほとんどの生徒がこれまでより将来について考えることができたと回答した。

中高生の居場所づくり事業・松戸市委託事

平成30年8月から松戸市青少年会館で金曜日週一回開催で事業が始まった。

- 事業当初は来場者も少なかったものの、近隣の学校や青少年会館を利用した中高生の口コミを通して徐々に浸透し、恒常に来場する子どもが増えた。中高生とも関係を築き始めており、日常の相談から学習に関する相談に乗りました。

学習支援事業

- 平成30年度、中学生を対象にした学習支援を月・木コースと火・金コースの2コースを開設、小学生は週2回月・金コースを実施。昨年に引き続き、利用する生徒のほとんどが5段階評価で3以下の成績だった。勉強を教えて出来るようになることよりも、自ら学習する力、自分で問題を乗り越えていける力、すなわち自立する力を身に着けることを目標に支援してきた。
- 今年は3年生の大半が女子で、お互いを尊重し合う中にも、励まし合い、仲の良い雰囲気で学習ができた。また、ボランティア等の活動にも積極的だった。
- 模擬試験も2回実施、昨年よりも学力を確かめつつ、試験にも慣れることができて非常に有効だった。
- 勉強合宿（集中特訓）を2回開催（8月16～17日、12月27～28日）。普段よりも長い時間を一緒に過ごすことで、生徒同士の繋がりが強まり、受験に向けて共に励まし合う姿を見ることができた。
- 受験では、前期で倍率が高い高校を受験して落ち、後期にチャレンジする生徒が昨年よりも多かったが全員が合格できた。
- 昨年度は実施しても参加がなかった保護者会が、今年は台風の影響で日程が変更になったが、4組の親子が参加（8月4日）。夏休み中の過ごし方、受験対策に向けての具体的な支援ができ、保護者にも好評だった。冬休みに入る前11月後半から12月にかけて、保護者面談、生徒面談をそれぞれ実施、家庭と協力体制で生徒を支援できるよい機会となった。
- 居場所づくりとしては、毎回休憩時間に、一人一人が安心できる場所となるためのルールを必ず読み上げ、利用者に守ってもらうように努力した。スタッフが読み上げていたものを、生徒自らが読み上げてくれるようになり、生徒が居場所を作る主体になる変化となった。
- イベントは、12月クリスマス、3月卒業パーティを行いました。毎年、中3生が「自分がお世話になったから、後輩たちにも何かしたい。」と中学卒業後、ボランティアしたいと申し出てくれて、支援を受けるだけでなく、貢献しようというよい循環が生まれている。去年卒業したメンバーが、スタッフとして、先輩として、卒業パーティで積極的に働き、立派に後輩たちにエールを送っている姿も見ることができた。
- SNS、インターネット、ゲーム、コミュニケーションスキルや就職について等々、様々な分野に関して、昨年に引き続き自立に役立つ情報を休憩時間に提供した。
- 毎年のことだが、2学期に入ると、受験を控えている生徒の中には情緒的に不安定になる生徒もいて、スタッフが話を聞いたり、カウンセラーが関わったりと、その生徒にあった形で話を聞いた。受験の悩みより家族・学校の人間関係の問題で悩んでいる生徒が多くいた。話することで精神的に落ち着き、学習意欲も上がった。

- ・今期は、勉強もコミュニケーションもうまく計れず、情緒不安定で自閉傾向がある心配な生徒がいた。保護者にも了承を取り、私たちが出来ることのみで支援するという条件で利用して頂いた。ところが、他の生徒達が、孤立しているその彼を仲間入れしようと自然な形で努力し、先日の卒業パーティでは、大勢の中、初めて自分から輪の中心になるようなゲームに参加することができた。自閉傾向の生徒がそこまで変化したことに、誰よりも私たちスタッフが一番驚いた。
- ・聖徳大学をはじめとする教育に関する大学生ボランティアが貢献してくれた。そのボランティアの中から、自分達を支援してくれた行政の働きに興味を持ち、松戸市に就職を決めた学生もいました。

利用者の状況について

利用者は、ほとんどが徒歩、自転車で通える範囲からの利用だった。

年間延べ中学生 2,035 名（前年 2126 名）、1 回平均の参加者数が 10.8 人（前年 10.9 人。）小学生は年間延べ 487 名（前年 324 名）、1 回平均の参加者数が 5.4 人（前年 3.5 人）。中学生は例年 3 年生が過半数を占めていたが、今年は 3 年生が 28.8%、2 年生 55.3%、1 年生 15.7%。

J キッズ

- ・里山体験キャンプに中高生ボランティア「レッツ体験」で呼びかけたところ、小学生の見守りスタッフとしての参加があった。2018 年 4 月に恒例行事のゴミ拾いを楽しみながら行い、中高大生にはファシリテーターとしてチームをまとめてもらい、良い交流の機会となった。

おやこ D E 広場旭町

- ・乳幼児と保護者が安心して過ごすことができる居場所として利用者に喜んでもらえた。
- ・旭町中の夏休みボランティアは去年より増えて、計 21 回 58 人の参加があった。ふれあい体験は 3 クラス、86 人が参加した。ふれあい体験は季節はずれの降雪や感染性胃腸炎により、延期になったが、生徒さんが楽しみにしているということで、受験生にもかかわらず、1 月 24 日に最後のクラスを実施した。
- ・シルバー人材センター、はつらつクラブの方々にイベントのお手伝いをしていただき、シニア交流センターではゴーヤの収穫体験をさせていただくなど、高齢者の方々と共に異年齢交流を続けている。

子育てコーディネーター

- ・のんびりできる広場として、保健師がコーディネーターを紹介するために一緒に来られる利用者が増えてる。今年度は保健師とともに長く関わっていた利用者のお子さんが保育園に入園するにあたり、保育園、子ども家庭相談課との連携の必要性を強く感じたことがあった。保育園入園後も広場を利用され、少しづつ落ち着いてこられる様子を知ることができ、うれしく思った。

- ・二年目の開催となった、ママパパ学級三日目では、先輩ママパパの交流の場で、産後うつになることをとても心配される方、イクメンにならなくてはとプレッシャーを感じているなど、率直な気持ちを話され、とても良い交流ができていた。
- ・松戸市子育てフェスティバルのおやこDEネットワーク主催のパパイベントをJワールドのリトミック事業に依頼した。「パパとふれあい遊び」はとても好評だった。

子育てセミナー

- ・市内各おやこDE広場に置かれたチラシ以外に、松戸市の子育て情報やホームページ等、インターネットからの参加者が増えた。ランチ提供もママ達がリラックスできる場となり、喜ばれた。

リトミック

- ・チラシやホームページを通して、子育ての悩みや不安などを持った多くの親子が来られ、安心して語れる場所となった。